

中四国ブロック U-12 選考会についての報告

【総括】

初めての取り組みと言うことで、手探り状態で開始しましたが、各県から選出した経験豊富な選考スタッフより、たくさんの前向きな意見交換ができ、この選考によって子供達に起きた効果は大きいし、選手やチームに予想以上に良い刺激が起きた。そして11月末又は12月初旬に開催予定の中国トレセンに向けてのきっかけづくりに繋がった。

【選考内容】

大会名：第34回中国小学生ホッケー交流大会兼平成30年度奥出雲町ホッケー選手権大会

開催日：平成30年7月14日（土）～15日（日） 2日間

会 場：三成ホッケー場（島根県仁多郡奥出雲町三成）

スタッフ：香川県（平尾和也、田島洋一）、岡山県（相浦康雄、足田真一）

鳥取県（加賀田知江、安木貴子）、島根県（二澤勉、飛田史秋）

広島県（富田恭平、萩塚栞未）、山口県（原田克彦、田中孝昌）

選考方法：各県スタッフによるメール会議にて選出

選考結果：男子27名、女子15名 ※詳細は別紙名簿参照

【選考スタッフからの意見】

- ホッケー競技の普及につながっていくと同時に人材、指導者、環境等課題山積みですが、他競技との差別化や部員確保、メディアへのPRにつなげる事ができる。
- ホッケーをやっている子どもたちの未来につながる可能性がある。
- たとえ試合で負けていても、選考があるために最後まで諦めない素晴らしいプレーがたくさん見られた。
- 子供達にとっても色々な経験ができ、沢山のホッケー仲間に出会える機会ができることとても励みになっている。
- このプロジェクトが成功し盛り上がっていくように、チームの育成も頑張っていきます
- 中四国で指導者との繋がりもでき、今後のホッケーの活性化につながる。
- 大会時の選手のプレーや、練習でしてないようないつもとは違った自力でどうにかしようとしたりするプレーが出たり、やはり違うプレッシャーがあったんだなど、いい経験が積めたと思ってます。
- 選考されている緊張感が試合のみでなく生活面にも現れた。
- あいさつや食事（嫌いなもの）をしっかりと食べることが出来た。
- 大会後も気を抜くことなく高いモチベーションで練習ができている。
- 練習試合等で交流がさらにできたら良いと思います。
- 他のチームの子たちと同じチームとして交流できる機会はなかなかないので、今後の合宿や練習等で多くの刺激を受けて成長してくれるのを楽しみにしています。
- 子供達の刺激になっている。これからの合宿等も勉強になり、成長してくれるのを、楽しみにしている。